



天神川水系流域治水プロジェクト 対策メニューの取組状況

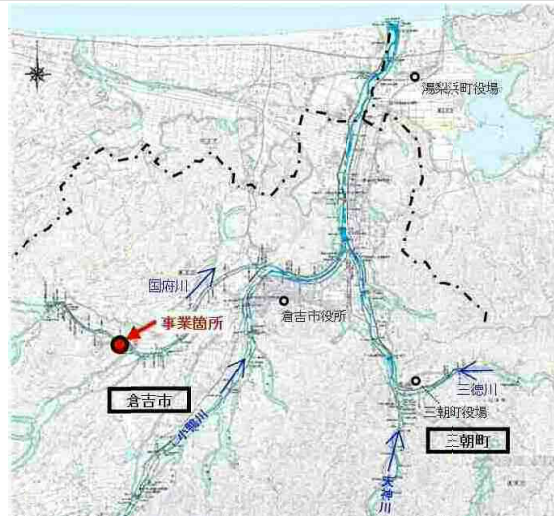
令和4年2月16日

倉吉河川国道事務所

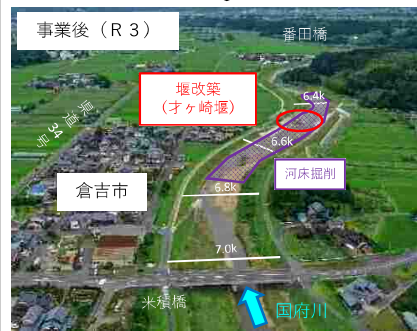
河川改修（河床掘削および堰改築）

- 倉吉市米積・下福田地先において、昭和34年9月に発生した戦後最大の洪水が再び発生した場合に、周辺地域の浸水被害の防止を図るために、河道掘削およびオケ崎堰の改築を実施した。

実施位置図



実施状況

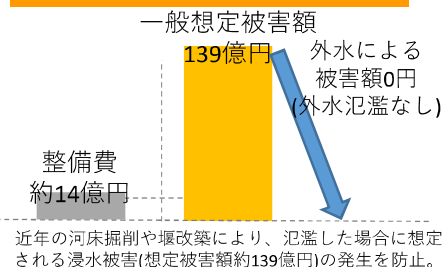


①1.1mの水位低減

【国府川6k400横断面図】



②約140億円の被害軽減効果

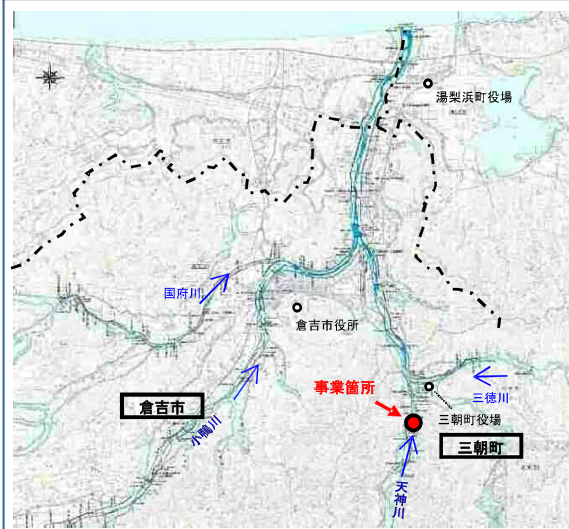


- ・天神川流域では、令和3年7月7日からの大雨により、24時間雨量が198mm/24hrに達し（小田上流域平均雨量）、福光水位観測所（鳥取県倉吉市）では、避難判断水位を超過。
 - ・国府川では、米積地区の改修の実施（河床掘削、オケ崎堰改築）により、6k400地点（米積地区）では、以下の効果を発揮した。
- ①約1.1mの水位低減により堤防決壊の恐れを回避
 - ②約140億円の被害軽減効果

河川改修（築堤）

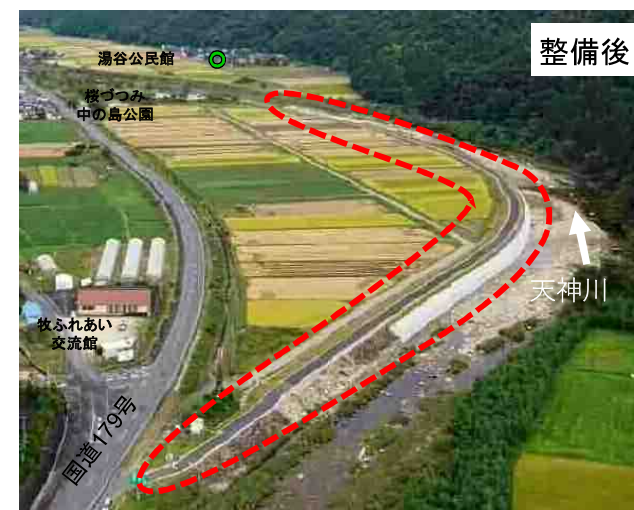
- 三朝町牧地先では、昭和34年9月に発生した戦後最大の洪水が再び発生した場合に、周辺地域の浸水被害の防止を図るために、築堤を実施した。

実施位置図



実施状況

- 築堤を実施することで、事業完了後に河川整備計画の目標である昭和34年9月洪水（戦後最大の洪水）が再び発生した場合において、周辺地域の浸水被害が防止されるとともに掘削土の有効利用が可能となる。

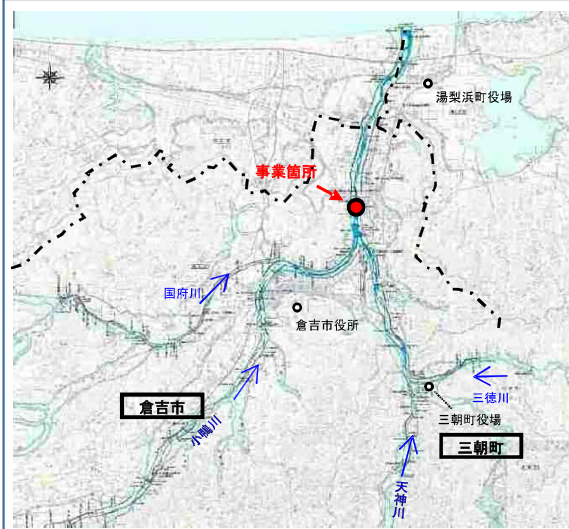


牧地区の築堤

河川改修（樹木伐採）

- 氾濫による危険性が特に高い区間において、洪水を安全に流下させるために必要な樹木伐採・河道掘削等を実施した。

実施位置図



実施状況

- 天神川小田橋付近において、樹木伐採・河道掘削等を実施した。

整備前



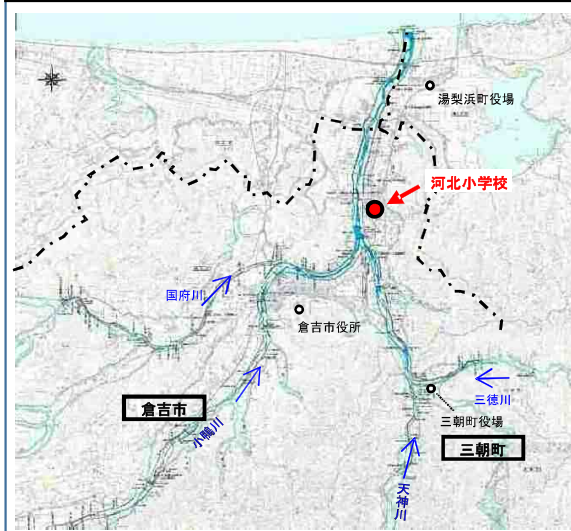
整備後



倉吉市内の小学校で「マイ・タイムライン」説明会を実施

- 令和3年6月11日、倉吉市立河北小学校の4年生約60名を対象に「天神川を守る取り組み」についての説明会を実施した。

実施位置図



実施状況

採泥器・採水器の実演



- ・倉吉河川国道事務所では、地元の小学校を対象に、川の防災や環境教育を継続的に実施している。
- ・天神川の特徴や浸水想定区域、「マイ・タイムライン」作成のためのポイント、天神川の環境について説明を行った。
- ・生徒らは河北小学校が3m浸水するとの説明に驚きの声をあげ、「天神川水系に捨てられるゴミは全国的に多い方ですか」など、活発に質問がされた。

説明状況（マイ・タイムライン）

当日の様子



【実施日】 令和3年6月11日(金)
10:35～11:20
【開催場所】 河北小学校
【参加者】 河北小学校4年生 約60名

今後のスケジュール

- ・ 令和4年度以降も小学校等の要望を受けて随時実施

関係機関と連携した多機関連携型タイムラインの活用

- 令和3年度の天神川水害タイムラインの運用にあたり、担当が変更となっている機関もあることから、タイムラインの概要、令和2年度の変更内容等を共有するために、令和3年度第1回検討会を6月1日(火)に開催した。
- その後の出水期では天神川水系でも避難判断水位を超過するような出水があり、タイムラインの立ち上げを行った。そのため、タイムライン運用を踏まえて、タイムライン運用時の課題整理や今後の見直し方針を検討するために第2回検討会を令和3年12月7日(火)開催した。
- 第2回検討会では、関係機関へ実施したアンケート結果やその結果を踏まえた見直し方針の説明、意見交換を実施した。

実施状況

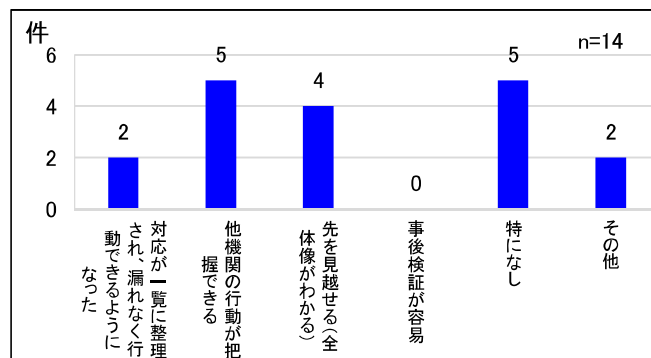


【日時・場所】: 第1回 令和3年06月1日(火)15:15 ~ (Web会議併用)
第2回 令和3年12月7日(火)14:00 ~ (Web会議併用)

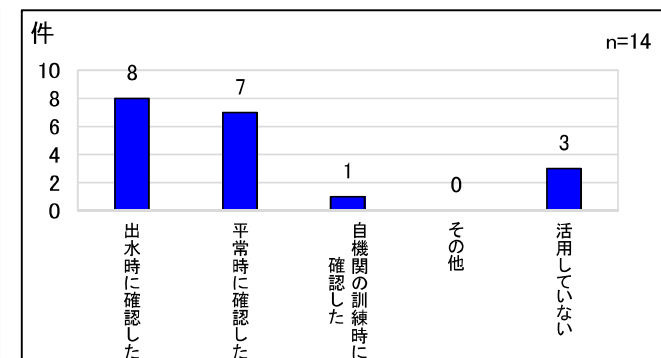
【アンケート結果】

アンケート結果ではタイムラインを運用したことで「他機関の行動が把握できる」、「先を見越せる」といった変化があった。また、出水時の利用だけでなく、平時からの確認や自機関の訓練で活用している機関もあった。

①タイムラインの運用でこれまでの洪水時の対応と変化したことはありますか。(複数回答)



②タイムラインの活用状況を教えてください。(複数回答)



令和3年第2回タイムライン検討会

【今後のスケジュール】

令和4年5月に令和4年第1回検討会(第9回検討会)を開催予定
引き続き、出水時に運用しながら見直し等を実施

【古川沢排水ポンプ場の整備】

倉吉市

1. 事業概要

古川沢地内を流れる「古川沢地区排水路」は流下能力が十分でなく、豪雨時には地域一帯が冠水状況となり、市道が冠水することによる住民の孤立や住宅の床上・床下浸水被害も発生しています。

このことから、浸水被害軽減を目的として排水ポンプ施設を整備しました。

2. 事業箇所

倉吉市古川沢地内



3. 整備状況

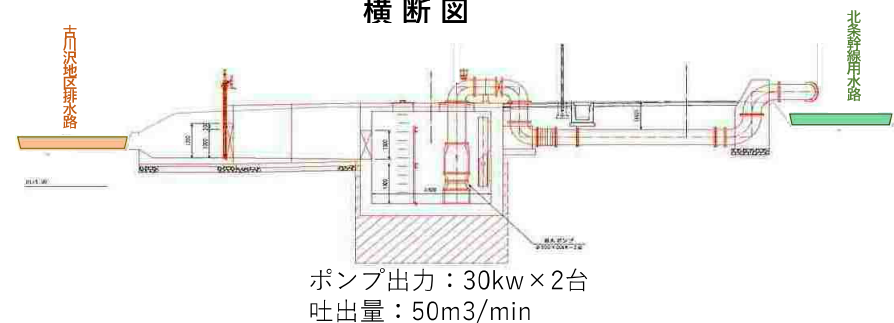
浸水区域下流部に排水ポンプ場を整備しました。



稼働状況 (R3.7.7)



横断図



ポンプ出力：30kw×2台
吐出量：50m³/min

流域治水プロジェクトの充実

(本省)打ち出しイメージ

- 令和3年3月末に全国109の全ての一級水系で策定・公表された「流域治水プロジェクト」に基づき、河川改修事業・ダム事業や地元自治体や流域関係者が連携して取り組む多層的な流域治水対策が全国各地で着実に実施されています。
- 令和3年度の流域治水プロジェクトに基づく取組を「見える化」することにより、事業の着実な推進を図るとともに、施策の横展開により流域治水の裾野を広げ、地域の安心・安全を確保してまいります。

令和3年3月30日 全国109の全ての一級水系で「流域治水プロジェクト」を公表

あらゆる関係者の協働により、ハード・ソフト対策を推進

令和4年3月末

令和3年度内の一級水系の各プロジェクトの取組を「見える化」

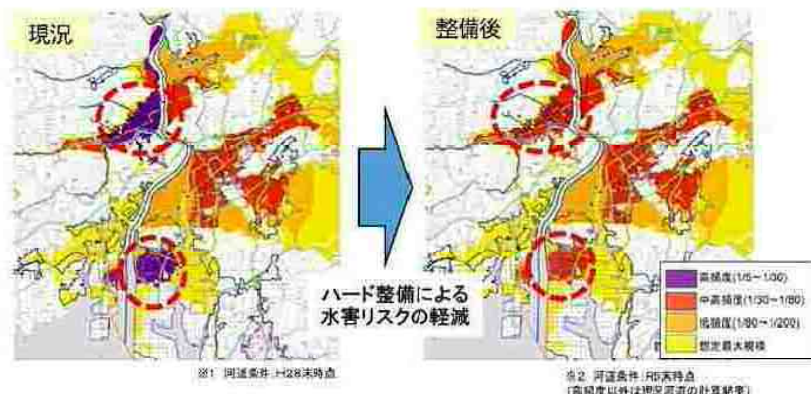
流域治水の根幹を支える
河川改修事業やダム事業の加速化

事業効果・進捗の見える化

全国109の全ての一級水系で、外水氾濫※を対象とした河川改修事業等による効果を公表

※国直轄区間における河川事業・ダム事業のみを対象 ※現況河道及び当面整備（概ね5か年）後のみ

降雨確率（10年に1度、100年に1度など）に応じた浸水範囲を重ねることにより現在の浸水リスクを示すとともに、戦後最大洪水等に対応した河川整備の進捗状況に応じた浸水範囲の変化を可視化し将来のリスクも提示することにより、河川整備の効果を「見える化」し、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりを推進
※令和4年度以降も引き続き内水を考慮するなど、水害リスク情報を追加・充実



整備効果の見える化のイメージ

あらゆる関係者の協働による
ハード・ソフト一体となった事前防災対策の推進

指標を活用した流域治水プロジェクトの更なる推進

全国109の全ての一級水系でハード・ソフト各々の主要な取組の進捗を公表

流域治水のもと、あらゆる関係者の協働による事前防災対策の取組状況を「見える化」することにより地域が抱える諸課題に対し、先事例を踏まえての更なる検討の促進や対策の充実を図る。

～流域治水プロジェクトに関する主な指標～



イメージ

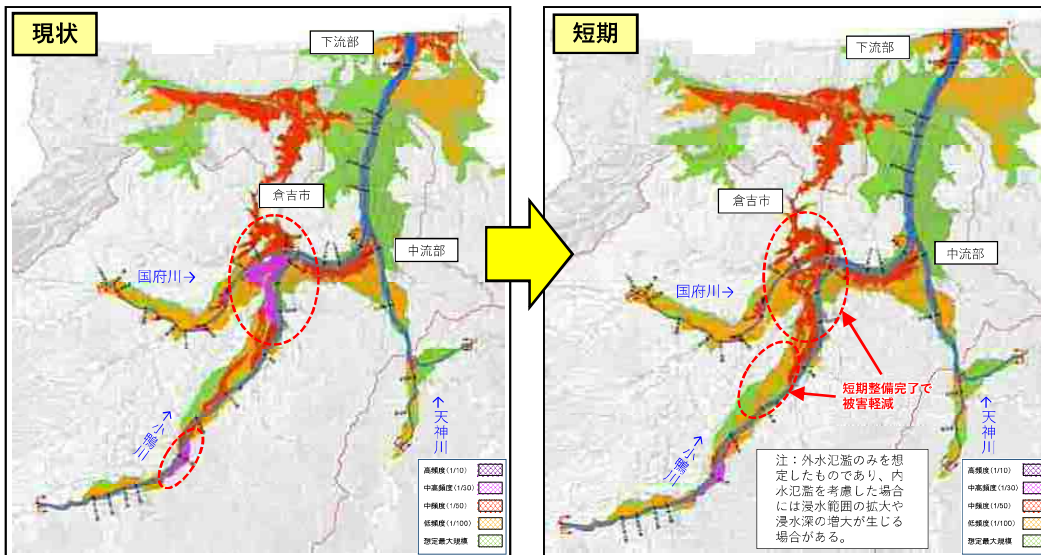
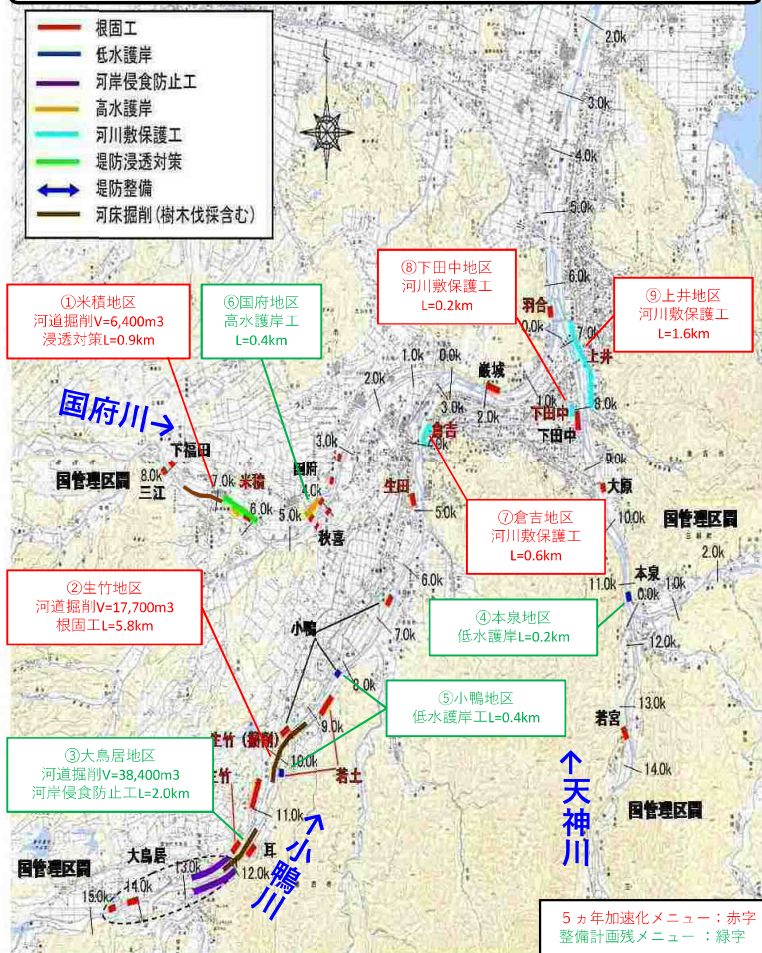
天神川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～急流河川に備え、未来の営みを守るプロジェクト、「清流 天神川」流域治水対策の推進～

短期整備（5ヵ年加速化対策）効果：河川整備率 約98%→約99%

【短期完了時】

・国府川米積箇所の河道掘削がR3に完了することで、国府川についてはS34伊勢湾台風規模の洪水でもHWL以下で流下させることが可能。小鴨川は大鳥居箇所の河道掘削がR12に完了することで、S34伊勢湾台風規模の洪水でもHWL以下で流下させることが可能となる。また、R12迄に全ての質的整備が完了することで、現行河川整備計画メニューが完了し、倉吉市街地の浸水被害を解消することが可能。今後は短期に続き中長期において河川整備基本方針の早期完成に向けて河川整備計画の変更を行い事業を推進していく。



区分	対策内容	区間	工程		中長期
			【5ヵ年加速化対策】 短期(R3~R7年) (天神川) 1/30 (国府川) 1/7 → 1/30	中期(R8~R12年) (小鴨川) 1/7 → 1/30	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削 0% → 100%	①米積地区	100% (早期完成 (R4→R3))		
		②生竹地区	100% (早期完成 (R12→R6))		
		③大鳥居地区		100%	
	根固工 0% → 100%	②生竹地区ほか	36%	100%	
		④本泉地区		100%	
		⑤小鴨地区		100%	
	低水護岸 0% → 100%	⑥国府地区		100%	
		⑦倉吉地区	100% (早期完成 (R4→R3))		
		⑧下田中地区	100% (早期完成 (R5→R4))		
	高水護岸 0% → 100%	⑨上井地区	100% (早期完成 (R7→R6))		
		①米積地区	100%		
		③大鳥居地区		100%	

【短期整備完了時の進捗】

- ①米積地区
河道掘削 0→100%
堤防浸透対策 0→100%
- ②生竹地区
河道掘削 0→100%
- ⑦倉吉地区
河川敷保護工 0→100%
- ⑧下田中地区
河川敷保護工 0→100%
- ⑨上井地区
河川敷保護工 0→100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

イメージ

天神川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～急流河川に備え、未来の営みを守るプロジェクト、「清流 天神川」流域治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備率



整備率 ○○%

(令和7年度末時点)

農地・農業施設の活用



○○市町村

(令和○年○月時点)

流出抑制対策の実施



○○施設

(令和○年○月時点)

山地の保水機能向上・
土砂・流木対策



治山対策・森林整備

○○箇所

(令和○年○月時点)

砂防事業による保全箇所

○○施設

(令和○年○月時点)

主幹道沿道・沿河川・沿河川
施設整備の充実



○○箇所

(令和○年○月時点)

水害リスク情報の提供



洪水浸水想定

○○河川

(令和○年○月時点)

内水浸水想定

○○団体

(令和○年○月時点)

高齢者等避難の実
効性の確保



避難確保計画

○○施設

(令和○年○月時点)

個別避難計画

○○市町村

(令和○年○月時点)

被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削や堤防整備等

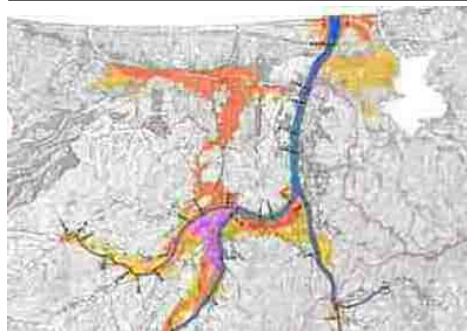


砂防堰堤等の整備による土砂流出対策



被害対象を減少させるための対策

多段階な浸水リスク情報の充実



現存する霞堤の保全・有効活用



被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

防災教育や防災知識の普及



水位計・監視カメラの設置



・各指標を用いたプロジェクトの取組状況について1枚作成
※指標の数字(河川整備率を除く)については、本省より提供予定(暫定値:2月第4週、確定値:3月頃を予定)